

第20回 KTSM 実技セミナーin 新潟 開催報告

●内容

- 1.口から食べられるためのベッドサイドスクリーニング評価、食事介助
- 2.経口摂取に繋がるベッドサイドスクリーニング評価
- 3.セルフケア能力を高めるための食事介助方法

●概要

日時：平成27年 10月24日（土）

時間：10時30分～16時00分

場所：新潟医療福祉大学

アドバイザー：5名

スタッフ：4名

受講者：栄養士 46名

主催：新潟県病院栄養士 学会発表研究会

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会

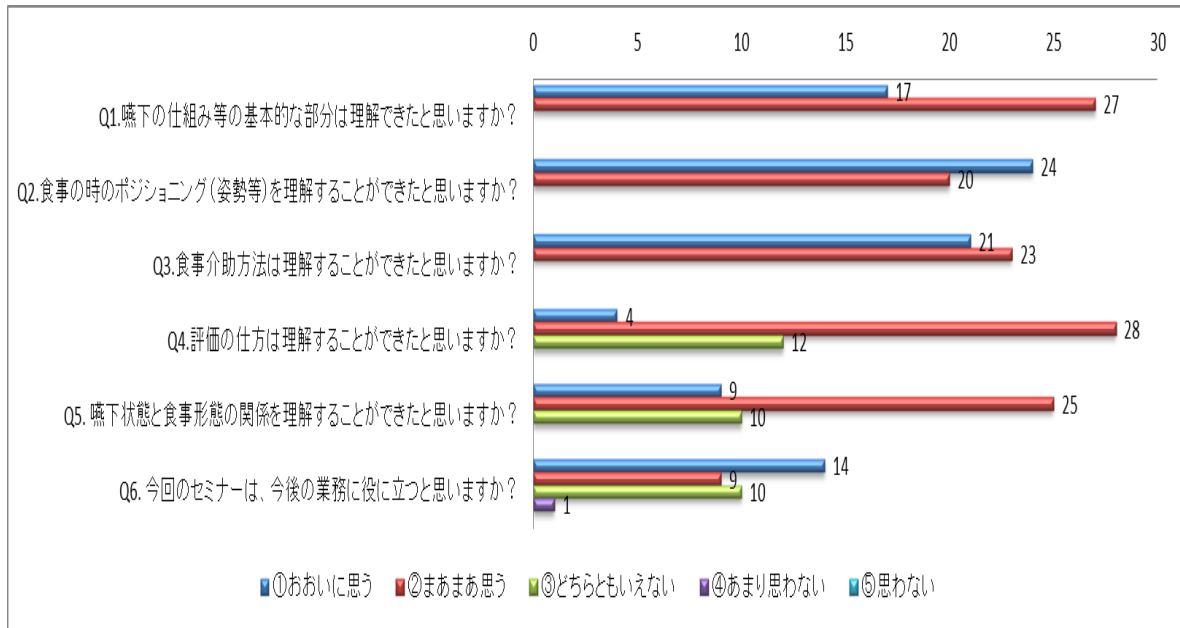
後援：日清オイリオグループ

●講師及びアドバイザー

＜敬称略＞		
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長	看護師 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士）
竹市美加 （兵庫）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師 （摂食・嚥下障害看護認定看護師）
児玉 秀樹 （兵庫）	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	歯科医師 （KTSM 実技認定者）
山路 雅美 （兵庫）	田中病院	管理栄養士 （KTSM 実技認定者）
井上 久美子 （兵庫）	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	管理栄養士

●アンケート結果

回答者 44 名 (回収率 96%)



<意見・感想>

- ◆ポジショニングによっては食べられないこともあり、食べさせる側に問題があるということを知った。手の添え方1つでも違う、細かな心配りと動作に1つ1つ意味があり、多方面から評価しなければならないことを知った。
- ◆実際に患者役、介助役のどちらも体験することで、どちらの気持ちも分かることが出来て良かった。また、食形態によって口の中のどの位置におくかなどとてもよく分かった。
- ◆療養病棟で経口維持加算を算定する予定がある為、評価方法やミールラウンドの際に実際に行ってみて観察のポイントやアドバイスのポイント等少しずつだが理解できたように思う。今後も練習や経験を積み重ねていきたい。
- ◆人生の生き方、老い方を教えて頂き参考になり大変よかった。ありがとうございました。
- ◆食事介助は単純に食べてもらう為のものではなく、環境を整える事の重要性、介助方法の違いにより食べ易さが全然違う事を理解できた。管理栄養士の業務として重要。
- ◆食事介助はインフラ！！と実際患者役になり分かった。
- ◆食に関わる全ての人が、この技術を身に付けることが出来れば、もっと多くの人が口から食べることが出来ると思った。
- ◆非常に実のある体験をありがとうございました。小山先生、アドバイザーの皆様、役員の方々ここまでの準備も大変だったと思います。企画して頂いた方々、素晴らしい企画をありがとうございました。本日のセミナーを原点として、これからの仕事を前向きにやっていきたいです。是非また、小山先生のこの研修会を、新潟で開催してください！

●セミナー実施風景

“新潟初！ 栄養士を対象としたセミナー ”
参加者は真剣そのものです。



口から食べる幸せを
サポートする包括的スキル
KTバランスチャートの活用と支援

編集 小山珠美



医学書院

*必須書籍↑テキストとして使用しました。

車椅子での食事介助



充実した良いセミナーとなりました。
講師、アドバイザー、受講者の皆様 誠にありがとうございました！

